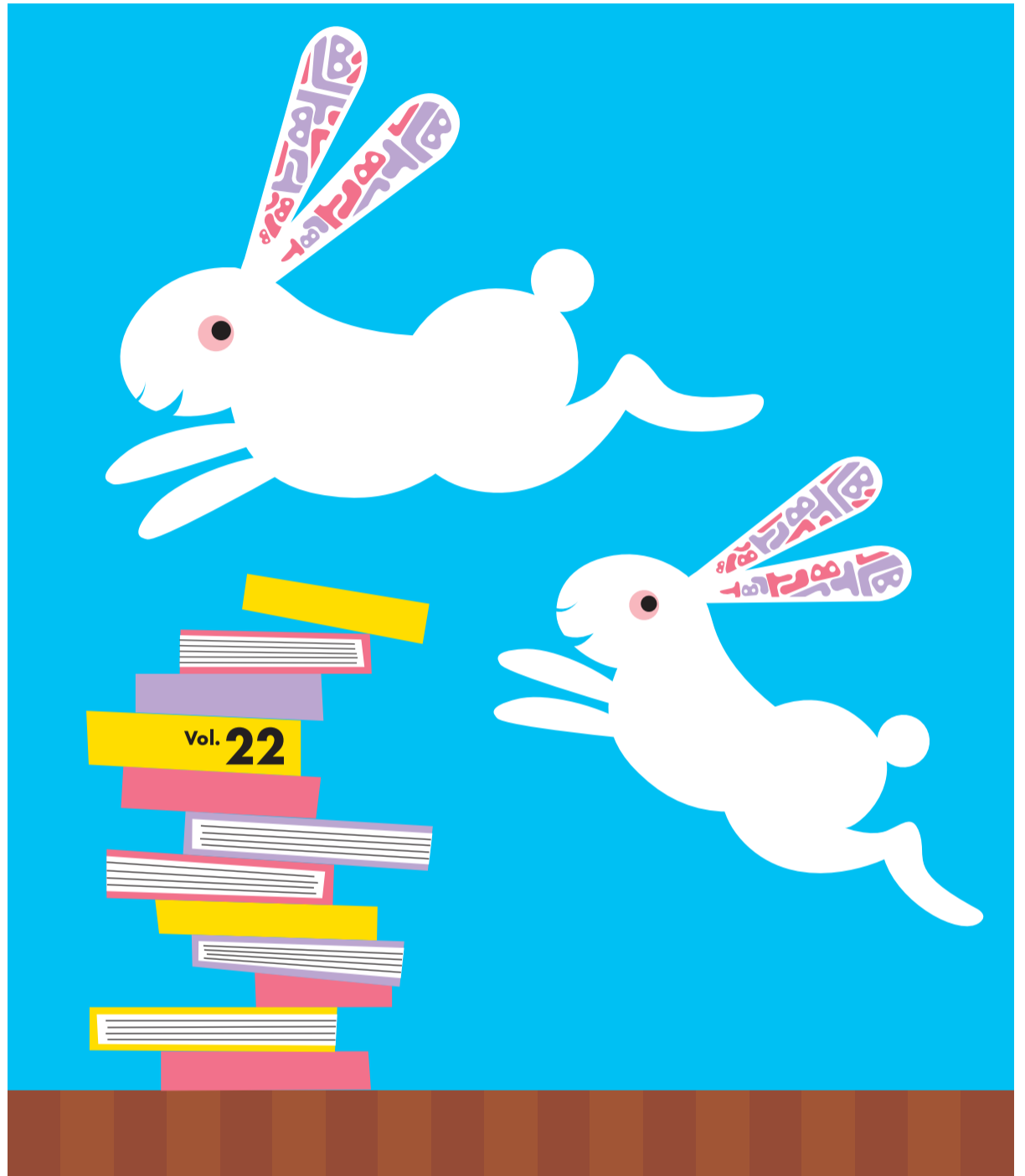


## HOT TOPICS

# 図書館の今、 そして未来を語る

これからの図書館について  
考えてみよう！

**CHECK 1** 梅花生と図書館員の対談  
**CHECK 2** ラーニング・コモンズ紹介



## information

### 2011年度前期

## 図書館展示と講演会

図書館3階メインカウンター前の展示コーナーでは、年に数回展示を行っています。展示に関連した講演会も年2回実施しています。貴重な資料、興味深いお話を見聞きできるチャンスです。みなさんの参加をお待ちしています！（いずれも無料です）

### 展示 「食の今と食文化について考える」

## 5月中旬～7月上旬

食はさまざまな観点から追究できる人類共通の関心事です。私たちは豊かな食の時代を迎えて幸せだと思っておりましたが、多くの問題が発生しています。

この問題解決の糸口の一つが「食育」です。また、外国の触れたことのない食文化やおもてなし文化の象徴である日本の食文化を図書で味わいましょう。展示図書は自然科学・民俗学・人類学などから選びました。

これからの食生活にお役に立てばと考えています。

### 講演会 「地産地消と食の未来」

【開催日】1回目: **6月11日(土)** 現在編(仮題)

2回目: **6月18日(土)** 未来編(仮題)

【時間】**13:00～14:30** 【定員】**60名**

【講師】梅花女子大学 文化表現学部 情報メディア学科  
教授 柳田 洋一郎

受講料無料 要事前申し込み (スクールバスでお越しの方に限ります)

地産地消は現代の食文化のテーマです。ところが京・大阪では食材の多くは他産自消でした。昆布や鰹節など関西の出汁の材料も遠方から運ばれてきたものです。今、グローバル化と農家の高齢化・農地の荒廃が問題になっています。趣味を超えた菜園で消費者から脱皮し、地域の交換システムを創出する可能性をさぐってみます。

## 今後のschedule

### ■ 「所蔵資料展」(仮題)

【展示期間】

- ・2011年4月2日(土)～4月30日(土)
- ・2011年7月中旬～9月下旬

### ■ 2011年度 後期 講演会・展示

【講演会】

「食」文化ーことばと歴史ー

古代から現代まで「食」に関わることばをテーマにお話します。

・2011年10月下旬予定

【展示期間】

・2011年10月中旬～11月下旬

# 図書館の今、そして

今回のBLTでは、梅花生と図書館員の対談をご紹介します。2011年2月にリニューアルした梅花女子大学図書館3階のスペース「ラーニング・commons」について、また普段図書館を利用して感じていることや今後図書館に期待することなどを日本文化創造学科の学生さんに自由に語っていただきました。

\*この対談は、2011年1月20日(木)、新コーナーで実施しました。

## Students 対談 Librarians

### ラーニング・commonsって?

**図書館:**今日はお忙しいところを、お集まりいただきありがとうございます。早速ですが、“ラーニング・commons (Learning Commons)”という言葉をご存じですか?1990年代から欧米の大学図書館を中心に広がった取り組みで、最近日本でも実践する大学が増えています。「学びの共有スペース」といった意味合いで用いられ、利用者が人的サポートや休憩、飲食の場を含む「サービス」を受けながら、資料や情報、設備を共有し、情報の「収集・編集・加工・発信」ができるオープン・スペースのことをいいます。

**高橋さん:**私たちの図書館にこのようなスペース(ラーニング・commons)を企画されたのは、どのような経緯があったのでしょうか?

**図書館:**これまでの図書館は、静かに本を読むところでした。このスタイルは基本的に守っていきたくて考えています。ただこれから皆さんは、知識を得るだけではなく、知識を共有することが多くあるかと思っています。豊富な情報の中から取捨選択しながら収集する力、それを活かして考える力、編集力や発信力を養っていただきたいという想いを形にしたのがラーニング・commonsへの取り組みでした。

このスペースを授業のプレゼンや打合せなどに活用していただくというのはどうでしょうか?例えば、皆さんは、日本文化創造学科の授業で“梅花WEB出版”を運営しながら電子書籍を作成されていますよね。その際に、いろいろな調べものをしたり本を広げたりするのに、大いに活用していただけるのではないかと考えています。時には、ちょっと休憩してソファでくつろいだり、友だち同士で語り合ったりすることもできます。皆さんに「ここを利用したい」と思ってもらえる要素を取り入れ、長く勉強していただけるスペースにしていきたいと思っています。まだ十分な環境整備がなされていませんが、今後、皆さんの「こんな風に使いたい」という希望を取り入れていきたいと思っています。



### 対談者梅花生のご紹介



文化表現学部  
日本文化創造学科  
3年生 高橋 さゆりさん

文化表現学部  
日本文化創造学科  
3年生 高田 優美さん

文化表現学部  
日本文化創造学科  
3年生 津乗 有里恵さん

**津乗さん:**もしそういうスペースだったら、普段あまり図書館を利用しない人でも、日常的に利用する事ができると思います。このスペースは開放感があって利用しやすいです。図書館で勉強したい人には、疲れた時にリフレッシュするためのスペースが必要だと思いますし、ここでひと休みできたら、また頑張って勉強しようという気持ちになるとと思います。

### リクエスト制度を活用しよう!

**図書館:**ところで皆さんは、普段図書館を利用して何か感じていることなどありますか?

**高田さん:**自宅で見たい本をOPACで検索していたのですが、直接本までたどりつかなかったことがあります。梅花女子大学図書館は蔵書数が多いのですが、私の好きな現代作家の本が1冊もおいてなかったりしたのですが...

**図書館:**選書に関しては、各学科の先生方に選んでいただいているほか、図書館としても、話題になっているものや書評に掲載されたもの、各種文学賞などを受賞したものを中心に選書しています。また、図書館には「リクエスト制度」というものがあり、学生の皆さんから図書館に入れてほしい本の希望を出してもらうことができます。このリクエストにつきましては、現在紙に記入してもらうという方法をとっていますが、インターネット経由での申し込みも考えています。こうした手続きについてはいかがでしょうか?

**高田さん:**読みたい本がOPACで検索してもなかった場合、そのまま画面上からリクエストの申し込みができるし、図書館まで記入しに行く手間がないので便利だと思います。

**図書館:**新しい記入フォーマットが完成したら、また皆さんにお知らせします。



# て未来を語る

## 最新情報はwebサイトから

**図書館**：ところで、皆さんは学生生活にとって大事な学内情報をどこから入手していますか？また、どんな情報を見る事が多いのでしょうか？

**高田さん**：やっぱりCCSで休講情報などを確認する事が多いです。またキャリア支援部に登録しておく、随時携帯電話に企業の募集情報が入ってきます。

**図書館**：図書館のホームページは、見てくださっていますか？

**学生全員**：すみません、あまりみていないです。

**図書館**：うーん、残念です(苦笑い)。図書の新着情報や展示のご案内、図書館からのお知らせなど、さまざまなトピックスを発信しています。私たちが皆さんに、新たな発見をしていただけるように頑張っていきますので、こちらもぜひご覧ください。

## 新しい本のかたち「電子書籍」について

**図書館**：皆さんは本を読むとしたら、iPadのようなデジタルのものがよいですか？それとも紙の本のほうがよいですか？

**高橋さん**：私は、画面上だと目が疲れるので紙のほうがいいです。

**図書館**：紙ベースの本がいい方には、今回作った新しいスペースで、くつろいだ気分で読書を楽しんでいただけます。



**高田さん**：iPadは使っていませんが、私は電子書籍かな。低価格で購入できます。司書課程の授業で、著作権の事も古い本しか読めない場合もあるという事を学びましたが、文字を大きく表示できたり、どこでも読めたり、抵抗感なく読めるところがよいと思います。

**図書館**：私たちも電子書籍に力を入れ、時代に対応してゆく姿勢でいます。導入後はぜひご利用ください。

今日、聞かせていただいた皆さんのご意見や図書館の利用の仕方など、大変参考になりました。今図書館に求められていることをしっかり受け止め、皆さんの日々の勉学、レポート作成、読書や趣味などに役立つ居心地のよい空間として機能するよう対応したいと思います。これからも大いに図書館をご利用ください。

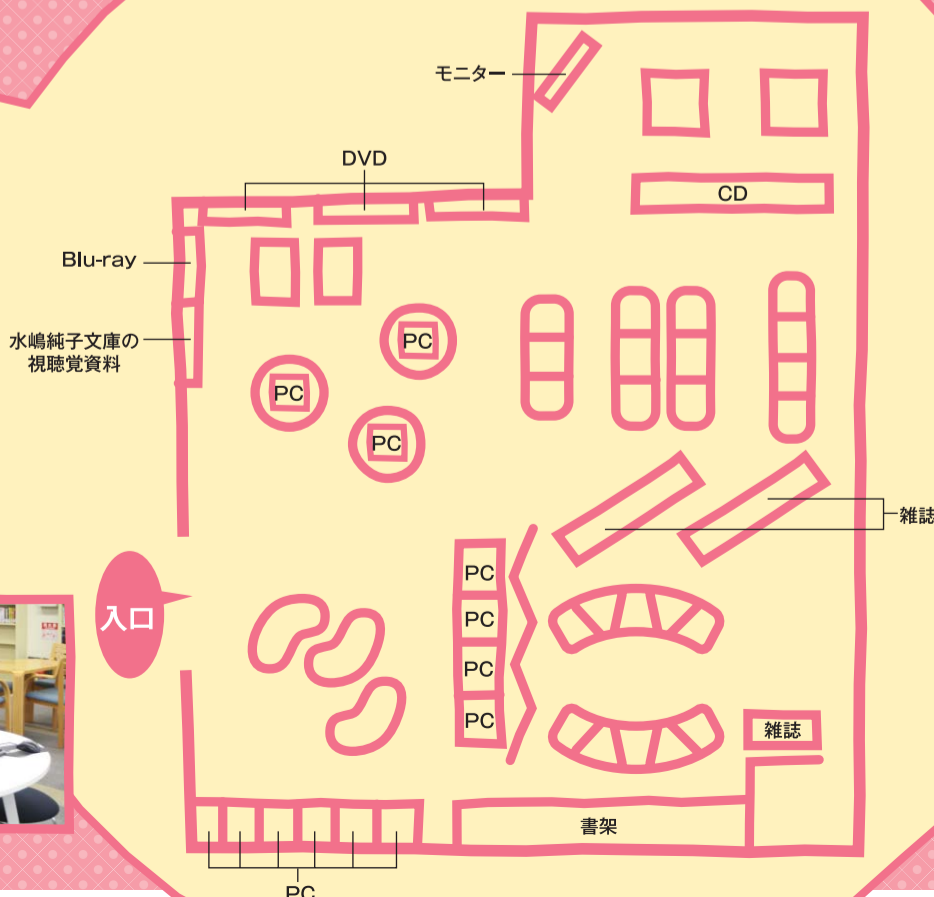
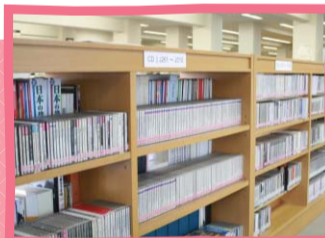
今日は、試験前でお忙しい中をお付き合いいただきありがとうございました。

誌面の都合上、対談内容は一部のみ掲載になりました。ご参加いただいた高橋さん、高田さん、津乗さん、ありがとうございました。(所属・学年は、対談当時のものです。)

## ラーニング・コモンズ スペース 紹介



3F





# Essay

## 「食の革命と大阪」

梅花女子大学 文化表現学部 情報メディア学科  
教授 柳田 洋一郎

牛鍋が文明開化を象徴するように、維新は食の革命でもあった。仮名垣魯文『安愚楽鍋』は1871年刊である。「肉食革命」とでも呼ぼう。幕末の開港により食の国際化は進んでいた。居留地からは西洋料理だけでなく、従業員として移住した中国人による大衆料理も広まった。華僑には三刃の伝統がある。ハサミと剃刀と包丁があれば世界のどこでも商売ができるという教えである。横浜や神戸では居留地の隣接地に南京町が生まれた。大阪の川口にも居留地があったが、商人は神戸に移り中国人は市内に散在した。梅本町公会(大阪教会)の梅本町も居留地に接している。江戸時代には肉食が禁じられたとされるが、菓食(くすりぐい)という裏メニューがあった。江戸では歌川広重「名所江戸百景」の「びくにはし雪中」に「山くじら」の看板が描かれている。猪肉である。上方落語にも『池田の猪買い』がある。

牛肉料理は東では牛鍋、西ではすき焼きであった。伝統的に農耕・運搬の家畜として東は馬、西は牛が主であった(宮本常一)。ぶつ切り肉を割下で煮る東の調理法は肉の鮮度にかかわるようだ。牛の少ない東日本では豚が飼育された。さらに日清・日露戦争で牛肉が戦地に送られ高騰したため豚肉が普及した(銀座煉瓦亭)。東は豚肉、西は牛肉の対照を代表する肉じゃがは、シチューを日本風にアレンジした料理である。東郷平八郎の創案説とともに軍港であった舞鶴と呉が発祥地を競っている。

1912年に人口は5000万人を超えた。シベリア出兵を機に米が買い占められ米価が高騰し、富山県魚津を発火点に米騒動が起きる。のちの米価統制・配給制につながっていく。一方、都市にはジャズ・映画・自動車などアメリカ文化が流入した。「洋食革命」の

時代といえる。1921年に銀座「資生堂バーラー」でコロケが創作された。1923年の関東大震災を機に谷崎潤一郎は阪神間に転居した。当時は東京にくらべ洋食屋は少なかったという。『細雪』などで美食家ぶりをみせた。阪急は梅田駅売店の2階食堂でライスカレーを出した(小菅桂子)。1925年に大阪市は市域を拡大し「大大阪」と呼ばれる日本一の大都市になる。松屋町の浦上商店がハウスカレーを発売した。梅花女学校が豊中に移転した頃である。市内周辺部ではまだ、毛馬きゅうり、天王寺かぶら、勝間なんきんなど近郊野菜が作られていた。

1931年に湯木貞一が新町に鯛茶漬「吉兆」を開いた。のち島之内に移り戦災に遭うが、1949年高麗橋に新店を構えた。浪花教会の北隣である。湯木は懐石を発展させた。辻調理師学校の辻静雄や志摩観光ホテルの高橋忠之と交流し研鑽を重ねた成果でもある。「洋食」に触発された和食の革新であった。

大阪・神戸が焦土と化した終戦後はあちこちに闇市が生まれた。臍物を「放るもん」だからホルモンという説が流布した。1955年には森永ヒ素ミルク事件が起きた。1958年には安藤百福の日清食品がチキンラーメンを発売した。ボンカレーなどのレトルトや冷凍食品の開発が続いた。電子レンジでの調理をあらわす「チンする」が広まった。松下製「エレックさん」は1971年発売である。「即席革命」の時代だった。1970年にダイエーはハンバーガーショップ「ドムドム」を出店した。ケンタッキーやマクドナルドが続いた。外食分野でも「即席」が展開していった。1980年代のバブル景気はグルメブームでもあった。北大路魯山人をモデルにした雁屋哲『美味しんぼ』や『あまから手帖』が蘊蓄のネタになった。

明治の「肉食革命」は村井彦斎「食道楽」というベストセラーを生んだ。「洋食革命」の代表には谷崎をあげておくのがいいだろう。「即席革命」はマンガとアニメを育てたといえる。

## 学園資料展示ホールのご案内

梅花学園の歴史は、1878(明治11)年1月開校の梅花女学校に始まります。梅花の校名は、女学校の設立にあたり梅本町公会(現在の大阪教会)と浪花公会(現在の浪花教会)の教会員の協力があったことに因んだものです。

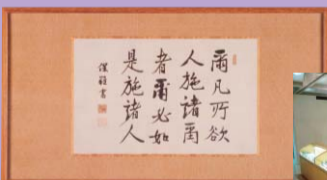
左下の写真は、創立者澤山保羅の愛誦聖句「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」(マタイによる福音書7章12節)の書です。他者への愛に生きた澤山の精神は、現在も梅花学園のスクールモットーとして受け継がれています。

学園資料展示ホールでは、133年におよぶ梅花学園のあゆみを写真、資料等により紹介しています。

### 常設展示「梅花学園のあゆみ」

展示場所: 澤山記念館1階 学園資料展示ホール

展示時間: 平日(学園休業日を除く) 9:00~16:00



愛誦聖句



澤山記念館資料展示ホール

## 本学園卒業生の著作紹介(2010年度受入)

(敬称略)

<p><b>植村花菜</b>(梅花高等学校卒)著 『トイレの神様』 宝島社 2010年7月刊 請求記号:767.8IU42</p>	<p><b>カズノコハラ</b>(大学・児童文学科卒)著 『まほうつかいのトビ』 石津ちひろ訳 光村教育図書 2010年10月刊 請求記号:絵本IIK027</p>
<p><b>植村花菜</b>(梅花高等学校卒)著 『トイレの神様』とごえまり絵 講談社 2010年9月刊 請求記号:絵本IIT067</p>	<p><b>カズノコハラ</b>(大学・児童文学科卒)著 『ふゆのようせいジャック・フロスト』 石津ちひろ訳 光村教育図書 2009年12月刊 請求記号:絵本IIK027</p>
<p><b>井上林子</b>(大学・児童文学科卒)作 『宇宙のはてから宝物』こみねゆら絵 文研出版 2010年12月刊 請求記号:児童書913IU57</p>	<p><b>宮下恵菜</b>(大学・児童文学科卒)作 『チャームアップ・ピース!』 クローバーグリーンで友情復活! 初空おとわ画 童心社 2010年10月刊 請求記号:児童書081IF36IB415</p>
<p><b>橘章子</b>(大学・児童文学科卒)著 『ゆうたとおつきみ』宮尾和孝絵 くもん出版 2010年9月刊 請求記号:児童書913IKU93</p>	<p><b>はらるい</b>(短大・英語科卒)訳 『どうしてほくをいじめるの?』 ルイス・サッカー作、むかひながまさ絵 文研出版 2009年4月刊 請求記号:児童書933IIA12</p>
	<p><b>流星香</b>(大学・日本文学科卒)著 『お庭番望月蒼司朗参!』 御前試合と美味しい「褒美」 エンターブレイン 2010年12月刊 請求記号:913.6IN19</p>

## 本学教員の著作紹介(2010年度ご惠贈)

(敬称略)

書名	著者	出版社	請求記号
北大阪に眠る古代天皇と貴族たち: 記紀万葉の歴史と文学 (梅花学園生涯学習センター公開講座ブックレット: vol.2)	市瀬雅之著	梅花学園生涯学習センター	910.23III16
文学とサイエンス: 英米文学の視点から	文学と評論社編・村田辰夫、上村幸弘執筆	英潮社フェニックス	930.4IIB89
英語の語彙に与えた外国語の影響	大槻博, 大槻きょう子著	燃焼社	832II089
日本・イギリス・フランスにおける絵本の国際比較研究 : 『インソップ寓話』をめぐって	加藤康子, 三宅興子, 高岡厚子 [著]	梅花女子大学児童文学科	909.028IIA-3IIKA86
不思議な石臼 (石井方式心を育む絵本, 花園文庫: 9)	加藤康子文/田頭よしあか絵	登龍館	絵本IITA17
朝鮮通信使をもてなした料理: 饗応と食文化の交流	高正晴子著	明石書店	383.8IITA41
豊中空襲(私たちの郷土研究「豊中」: 第2号)	豊中市立第一中学校 郷土研究クラブ編 : 能登宏之顧問	豊中市立第一中学校 郷土研究クラブ	216.3IIT088
論文集「中国の絵本」・シンポジウム報告集「中国と日本の絵本」 (中国語圏の絵本と日本の絵本: 2. 中国)	三宅興子編集長/成實朋子 [ほか] 編 /成實朋子 [ほか] 訳	大阪国際児童文学館	909.8IIMI76

## 梅花女子大学図書館

〈月~金〉8:50~20:00  
〈土〉8:50~16:00

〒567-8578  
大阪府茨木市宿久庄2-19-5

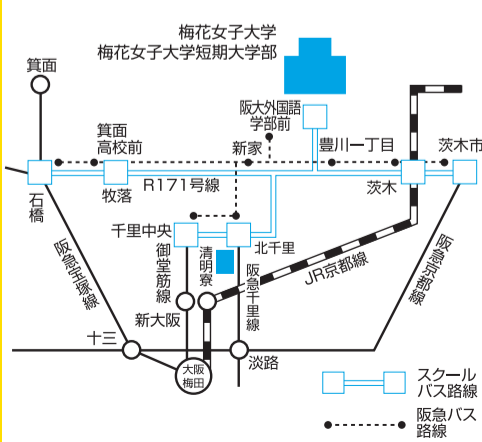
### 【図書館】

tel 072-643-8498  
fax 072-643-1952  
e-mail blibrary@baika.ac.jp

### 【学園資料室】

tel 072-643-8447  
fax 072-643-1952  
e-mail shiryo@baika.ac.jp

### 【交通路線図】



## よもやま

●新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。ご卒業までの間、図書館とのお付き合いをよろしくお願いいたします。●BLT(ビーエルティ)22号をお届けします。●Essayには、文化表現学部 情報メディア学科 柳田先生から「食の革命と大阪」と題して、日本の食文化の歴史に触れた興味深いお話をいただきました。ありがとうございました。先生には5月からの展示、6月の講演会を2回にわたって行っていただきます。皆さんもぜひご参加ください。●今回は、図書館3階にリニューアルオープンしたスペースの特集を組みました。対談にご参加いただきました学生さん、ありがとうございました。皆さん、新感覚の図書館をご利用いただきますようよろしくお願いいたします。●シンガー・ソングライターの植村花菜さんをはじめとする学園卒業生の皆さん、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

●次回23号の発行は10月頃を予定しています。ご期待ください。

### 学外の方へ

本学図書館は、高校生以上の女性の方に公開しています。大学や研究機関に所属されている方は、男女を問わず、所属機関の紹介状が必要です。これらに該当されない方は、お問合せください。いずれの方も来館される前にご連絡ください。